

監修／東京福祉大学教授 栗原 久
制作・文／北沢杏子
企画・イラスト／長谷川瑞吉

 **アーニ出版**

〒158-0097 東京都世田谷区用賀 3-5-6
Tel. 03-3708-7321 Fax. 03-3708-7325
ホームページ <http://www.ahni.co.jp>

10分でできる“薬物の害”授業セット 3巻

たいま

シンナー・覚せい剤・大麻はキケン!

(マリファナ)

◆指導対象 小学校中・高学年 特別支援学校・学級

薬物を治療の目的からはずれて使ったり、シンナー・覚せい剤・大麻など、法律で禁止されている薬物を使うことを薬物乱用といいます。たとえ1回でも乱用にあたります。

乱用される危険のある薬物は、中枢神経系(脳)を興奮させたり、逆に抑制したりする働きがあります。共通しているのは、「依存性」をもっていることです。1回だけなら大丈夫と思っても自分の意思ではやめられなくなり、薬物を手に入れることだけが目的の、台無しの人生を送ることになります。

作用で分類した主な依存性薬物



脳を興奮させるもの

覚せい剤 コカイン
咳どめシロップ
タバコ コーヒー
チョコレートなど



幻覚が出るもの

LSD MDMA
マジックマッシュルーム
大麻
各種の違法ドラッグ
など



脳を抑制させるもの

シンナー・トルエン
などの有機溶剤
アルコール あへん
モルヒネ ヘロイン
睡眠薬 精神安定剤
など

薬物の誘惑の手口

「ダイエットに効く」

「眠けがなくなりシャキッとする」

「頭がさえて勉強に効果的」

「疲れがとれる」

繁華街を歩いていると(密売者が)「ダイエットに効く」「眠けがなくなる」「頭がさえて勉強がよくできる」「疲れがとれる」などと誘いをかけてきます。携帯電話やインターネットでの販売もあります。

小学生のうちから、こうした現実を知らせておかないと、だまされて使用したり、「一度くらいなら」と手を出してしまうのが乱用の始まりです。「一度やったら止められない」のが依存性薬物の特徴——そして、自分の人生を、薬なしでは一日もいられない「薬物依存の生涯」にしてしまうのです。

シンナーなどの有機溶剤の害

シンナーやボンドなどを「有機溶剤」といい、水に溶けないペンキなどの塗料の希釈やプラスチックを溶かすために使われます。ビニール袋や空き缶に入れて気化したものを吸う方法で乱用されますが、脂質を溶かす性質があり、脳の神経細胞の一部を溶かします。有機溶剤を吸うと脳の働きを抑制する作用があるので、酒に酔ったような気分になったり幻覚を体験したりします。一度に大量吸入すると、延髄^{*}の呼吸中枢が麻痺したり酸欠状態になったりして死亡することがあります。



シンナー吸引現場に残された空き缶など

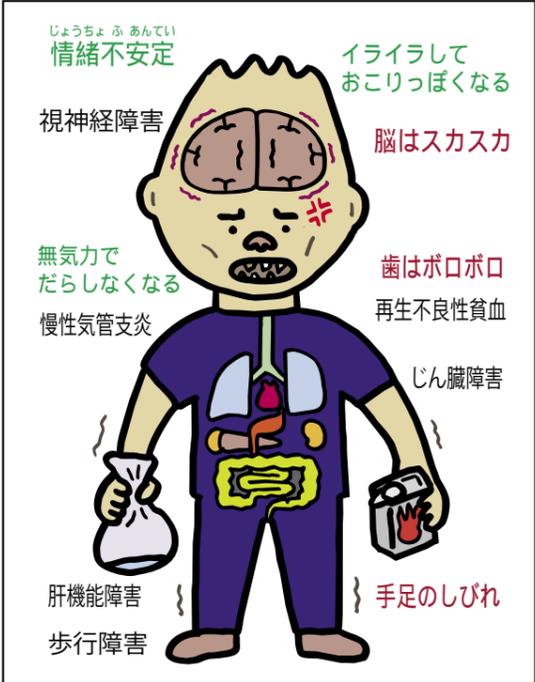
^{*}脳髄の下の端で、脊髄に移る部分。脳の命令の伝達経路にあたり、呼吸中枢、心拍中枢がある。

有機溶剤	シンナー	ボンド (接着剤)	スプレー製品	ガス
◆ベンゼン、トルエン、キシレンなどの麻酔作用を持つ成分を含む。 ◆工業製品や家庭用品でたくさん使われており、規制がむずかしい。 ◆揮発性、芳香性、引火性のものが多く、乱用時にタバコの火などを引火して火災や爆発を起こした例もある。	塗料などを溶かして薄めるためのもので、主成分はトルエン。揮発性なので、気管支や肺から吸収され、血流に乗ってすばやく脳まで運ばれ脳を麻痺させます。	合成樹脂を溶かして接着するためのもので、トルエン、メタノール、酢酸エチルなどを含まれます。	薬液とガスを充填し噴射するスプレー式になっている。これらの中には、シンナー成分と同じ有機溶剤を含んでいるものがあります。	液化天然ガスやブタンが主成分。これらのガスをビニール袋に入れて吸うと一瞬で酸欠状態になり意識障害が起こります。一歩まちがえば死に至る非常に危険な行動です。

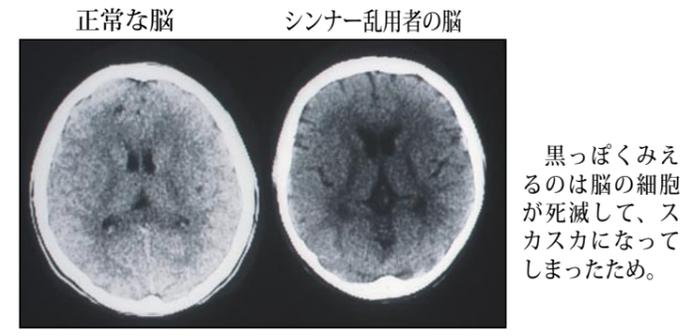
※若者たちは、吸引するシンナー・トルエン・ボンドを「アンパン」、ガスを「ガスパン」とよんでいます。

●からだはボロボロ

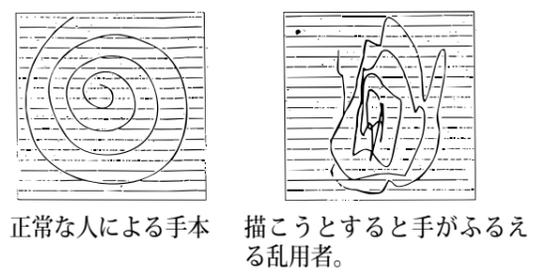
シンナーの長期乱用による障害には、慢性気管支炎・視神経障害・再生不良性貧血・肝機能障害・腎臓障害・多発性神経炎(手足のしびれ)などがあります。精神障害では情緒不安定でいらいらして怒りっぽくなったり、無気力でだらしなくなるなどの性格の変容が現れます。



●シンナー乱用で萎縮した脳



●うずまきを描く際に見られた手のふるえ



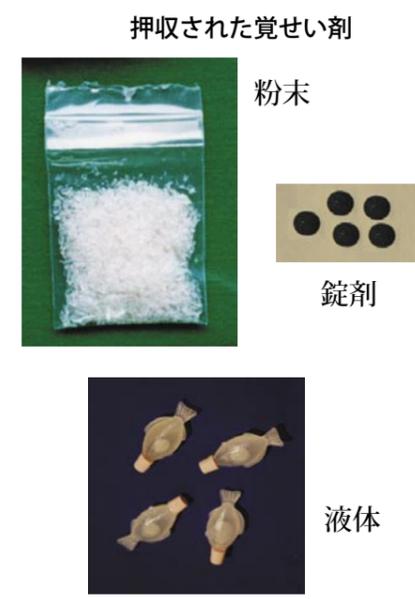
覚せい剤の害

一度手を出したら止められなくなり、身も心も、骨までもシャブられてしまうことから、覚せい剤は『シャブ』とよばれています。

若者の間では、『スピード』『エス』『アイス』『やせ薬』『眠くならない薬』などの名前で流行し、汚染が広がっています。

覚せい剤は脳を興奮させ、一時的に眠けや疲労がなくなったような気分になりますが、その作用が切れると逆に激しい疲労感におそわれ、無気力状態におちいります。この状態から抜け出すためや、使用したときの気分が忘れられず乱用を繰り返すようになります。

覚せい剤依存症になると、購入費欲しさに借金・万引・窃盗・恐喝・売春など、どんなことをしてでも覚せい剤を手に入れようとします。



●幻覚・妄想におそわれる覚せい剤

覚せい剤乱用による精神の障害でもっとも多いのは、幻聴・幻視などの幻覚を伴う妄想で、「自分の悪口をいっている」「見張られている」「殺される」と思いこむことです。そのため、発作的に傷害や殺人、放火、強盗、自殺などに走ることがあります。

●やめても起こるフラッシュバック現象

覚せい剤乱用を止めることができても、ストレスや不眠などが引き金となって、以前に経験した幻覚や妄想が突然、再現することがあります。



●逮捕される

刑務所に入る受刑者の5分の1(女性では3分の1)が覚せい剤事犯です。「依存性」が強いため、再犯率も5割を超えています。



大麻(マリファナ)について

大麻草の雌株のはなのところを乾燥させてきざんだものをマリファナ、花冠から採取した大麻樹脂をハシシュといいます。THC(テトラヒドロカンナビノール)が有効成分で、マリファナはタバコのように巻いて吸います。脳の視覚野(後頭部)、聴覚野(側頭部)が急速に影響を受け、幻視・幻聴が現れるので、それを楽しむために、マリファナパーティーなど群れて吸うことが多いようです。

●大麻汚染が若者に広がっている

日本では近年、シンナー・トルエンなどの有機溶剤事犯は、大幅に減少しましたが、大麻事犯は急増しています。検挙者の6割以上が30歳未満で、若者の間に大麻汚染が広がっていることを実証しています。

増加の要因として、携帯電話やインターネットの普及で購入が簡単になったこと、また若者の間に、大麻乱用グループなどが広がり「カッコイイ」流行ともなっていることがあげられます。インターネット情報などに惑わされない指導も必要です。

大麻(マリファナ)の人体への影響

大麻の体への影響は、知性・理性の中枢である脳の前頭前野に作用して、記憶が悪くなり、自制心がなくなり自発性が失せることです。

幻覚や妄想も起こる

脳に対する作用

- ・やめたときに焦燥感
- ・不眠、食欲低下



自制心がなくなり 凶暴な行動をとる

- ・急に他人を攻撃する

動因消失症候群

- ・やる気がなくなる
- ・自発性が失せる
- ・集中力、思考力が落ちる

急性の身体的影響

- ・心拍数増える
- ・結膜が充血する(血管の拡張)
- ・発疹・吐き気

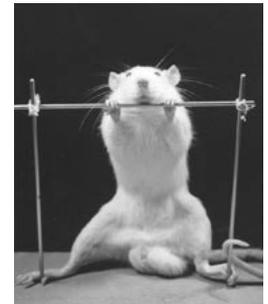
ムリサイド
(マウスがみ殺し行動)



通常ラットはネズミの仲間であるマウスを殺すことはないが、大麻の有効成分THCを投与すると凶暴性が出てかみ殺す。

人間でも大麻で攻撃性が高まりやすい。

カタレプシー現象



THCを投与すると、その薬理作用による意欲低下から、不自然な姿勢を2~3時間とり続ける。人間も大麻を使い続けると意欲が落ちる。

●薬物乱用に関する法律と罰則

薬物	取締法	懲役
シンナーなどの有機溶剤	毒物及び劇物取締法	1年以下の懲役
覚せい剤	覚せい剤取締法	10年以下の懲役
大麻	大麻取締法	5年以下の懲役
ヘロイン	麻薬及び向精神薬取締法	10年以下の懲役
コカイン・MDMA・LSD マジックマッシュルーム	麻薬及び向精神薬取締法	7年以下の懲役
あへん	あへん法	7年以下の懲役

●もっと強い薬物に手を出してしまう

大麻乱用は、覚せい剤、コカイン、ヘロインなどのハードドラッグ乱用へとエスカレートする危険性が高い。